

今週（8月31日から9月4日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、税揚げや国債の発行によって、日銀当座預金残高が464.2兆円から459兆円程度に減少したものの、全体的には資金調達意欲が弱い展開となった。

無担保コールO/N物は、31日に月末要因によるレート低下が見られた後に若干上昇に転じたものの、3日から再び低下に転じた。資金調達意欲が強い先も見られたものの、全体的にはビッドが弱含む様な展開であった。ターム物は、1～2W物を中心に▲0.05～▲0.03%の水準で引き合いが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは4日に 2W物・20,000億円がオファーされ、1,801億円（期落ち額2,802億円）の札割れとなった。

●レポ市場

週初31日から1日にかけてのGC T/Nは、▲0.09～▲0.08%程度の出合い。2日のT/Nは投資家の資金調達ニーズがやや後退したこと等を受け、当初▲0.08%台中心に出合っていたものの、後場は一時▲0.15%程度まで下げて出合う展開となった。3日のT/Nは▲0.12～▲0.10%程度、4日のT/Nは▲0.13～▲0.11%程度で推移した。

SCは、個別銘柄では2y407～416、5y139～144、10y338～359、20y169～173、30y59～67、40y11～13等カレント近辺の銘柄に引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、GCレートの低下や、オペによる若干の需給改善などを受けて、3M物で▲0.140～▲0.124%、6M物で▲0.130～▲0.1175%、1Y物で▲0.145～▲0.140%の出合いと、全ての期間で堅調な推移となった。

1日に実施された短国買入オペは、2兆円でオファーされた。応札額が59,059億円と多めで、平均落札利回較差+0.007%、按分落札利回較差+0.004%と、やや甘めな結果となった。

4日に実施された3M物の入札は、WI取引において、▲0.125～▲0.120%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1239%、按分落札利回▲0.1162%と、順調な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.140～▲0.130%出合いと、強含みで推移した。

●CP市場

今週のCP市場は月初にあたり、発行が少なく閑散とした週となった。発行額を予定より増額する動きが散見された。週間の金額ベースでみると、800億円程度の償還に対して、1,600億円程度の発行と発行超となった。市場残高は、先月の月末発行でロール額が減少した銘柄が見られたことで、先週の26兆円台を割り込み、25兆円台後半となった。発行レートについては、目線は先週から大きく変わらず、概ね0%からマイナス圏であった。

3日にはCP等買入オペが事前予定通りの6,000億円でオファーされた。9月は6,000億円のオペが3回予定されており、レート低下が期待される中、按分レート▲0.042%・平均▲0.018%と、前回（按分▲0.028%・平均▲0.023%）から按分が低下、平均は上昇という結果になった。足下の発行が膨らまない中、応札額が7月17日のオペ以来の1兆円台となったことを鑑みると、レート低下が意識されつつも、売却ニーズもある程度強いことが窺える。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
8/31（月）	23,139.76	0.045	105.37	△ 0.057	△ 0.089	4,642,200
9/1（火）	23,138.07	0.040	105.87	△ 0.052	△ 0.094	4,618,900
9/2（水）	23,247.15	0.040	106.01	△ 0.051	△ 0.086	4,593,600
9/3（木）	23,465.53	0.030	106.23	△ 0.058	△ 0.117	4,594,900
9/4（金）	23,205.43	0.035	106.15	△ 0.057	△ 0.116	4,591,200

来週（9月7日から9月11日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
9/7 (月)	8月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 7月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)				New York祝日 (Labor Day)
9/8 (火)	4-6月期のGDP 2次速報(内閣府 8:50) 7月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 7月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 7月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 7月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30) 8月の景気ウォッチャー調査(内閣府)	5Y 25,000億円 9/9発行			7月の米消費者信用残高 4-6月期のユーロ圏GDP確報値
9/9 (水)	8月のマネーストック(日銀 8:50)	TB6M 36,000億円 9/10発行			
9/10 (木)	7月の機械受注統計(内閣府 8:50)	20Y 12,000億円 9/11発行	エネルギー 対策借入 6,000億円 9/23借入		ECB定例理事会(金融政策発表) 7月の米卸売売上高 8月の米生産者物価指数
9/11 (金)	8月の企業物価指数(日銀 8:50) 7-9月期の法人企業景気予測調査季報 (内閣府・財務省共管 8:50)	TB3M 75,500億円 9/14発行			8月の米財政収支 8月の米消費者物価指数

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
9/7 (月)	900	▲ 500	400	国債買入 全店共通 CP買入 国債補完	▲ 2,800 ▲ 200 100	5,300 1,800 6,000	10,200	10,600	TB3M発行△75500償還73900
9/8 (火)	1,000	2,000	3,000				0	3,000	
9/9 (水)	0	▲ 23,000	▲ 23,000				0	▲ 23,000	5Y発行△25000
9/10 (木)	0	▲ 8,000	▲ 8,000				0	▲ 8,000	TB6M発行△36000償還23700
9/11 (金)	0	▲ 11,000	▲ 11,000	社債買入		3,000	3,000	▲ 8,000	20Y発行△12000 交付税借入△10000期日11700
週 間 合 計	1,900	▲ 40,500	▲ 38,600	—	▲ 2,900	16,100	13,200	▲ 25,400	

9/7は日銀予想、9/8以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、国庫短期証券の発行超過や5年債・20年債の発行などによる資金不足が見込まれるものの、引き続き資金調達ニーズは低位で推移することが見込まれる。無担保コールO/N物加重平均レートは横ばいでの推移を予想する。また、9日には「2020年9月積み期間に適用する基準比率」が発表される予定となっている。基準比率(現在29.0%)は29.0～30.0%程度になると予想する。レポ市場は、GC O/N物は今週と横ばいの▲0.15～▲0.08%程度での推移を予想する。短国市場は、9日に6M物の入札、11日に3M物の入札が実施予定となっている。需給動向やレート水準など、市場動向が注目される。CP市場は、10日・15日発行にあたるため、発行の増加が期待される。発行レートは、15日のオペの水準感が意識されると見られ、引き続きマイナス圏での発行が予想される。

主要なイベントは、8日に4-6月期のGDP2次速報、4-6月期のユーロ圏GDP2次速報、10日にECB定例理事会、11日に8月の米消費者物価指数などが挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入